

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 准教授

氏名 藤野寛

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

教育活動として、主に獣医学科の学生を対象として微生物学（ウイルス）の教育を行っている。特に獣医微生物学実習では中心的に動いており、ウイルスの取り扱い・ウイルス感染価の測定といった基本的なウイルスの実技を教育している。研究室では所属する学生の卒業論文指導やゼミを行っている。その他に獣医学科5年次の担任を受け持っている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医微生物学総論	獣医学科	必修	2	148
獣医微生物学各論Ⅱ(ウイルス)	獣医学科	必修	3	160
獣医微生物学実習Ⅱ	獣医学科	必修	3	140
獣医学特論Ⅰ	獣医学科	必修	5	4
獣医学特論Ⅱ	獣医学科	必修	6	6
総合獣医学	獣医学科	必修	6	143
卒業論文	獣医学科	必修	6	3
微生物学	動物応用科学科	必修	2	153
獣医微生物学特論	獣医学専攻	選択	1	1
獣医微生物学特別演習Ⅰ	獣医学専攻	選択	1	1
獣医微生物学特別実験Ⅰ	獣医学専攻	選択	1	1
獣医微生物学特別演習Ⅱ	獣医学専攻	選択	2	0
獣医微生物学特別実験Ⅱ	獣医学専攻	選択	2	0
獣医微生物学特別演習Ⅲ	獣医学専攻	選択	3	0
獣医微生物学特別実験Ⅲ	獣医学専攻	選択	3	0
獣医微生物学特別実験Ⅳ	獣医学専攻	選択	4	0

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

研究室での指導においては、基礎知識に基づいた正確な実験手法の習得や科学的思考に基づいた実験・研究計画の作成が可能である様な学生が生まれることを目標としている。実際には、科学の基礎を理解し、基本的手技を身に着け、ある程度研究を自分で進めることが出来るようになってほしいと考えている。また、獣医学科では進路として臨床獣医師を考えている学生が多い点から基礎的な科目である微生物学実習に身の入らない学生が毎年数名認められる。実習においてはこういった基礎科目を苦手としている学生にも基本的な微生物の取り扱いを習得し、感染症学を理解してほしいと考えている。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

講義及び実習においては毎回ミニテストを実施している。特にミニテストでは国家試験の過去問題などを出題することで、臨床系以外に興味を持たないような学生も微生物学の知識が重要であることを認識してもらおうとしている。また、ミニテストの内容を毎年少しずつ変えながら出題し、最終回で内容を配布している。翌年の学生が対策資料として手に入れ、ミニテスト対策として去年度の資料を勉強することでより理解を深めてもらうことを目的としている。また、研究室の指導では定期的に学生の手法を確認し、間違った手法が広まっていないかを確認している。卒論をすすめる際には大卒のゴールを設定し、それに至るための解析方法や考え方を話した後に、具体的な手法を学生に提案してもらいすすめるようにしている。特に条件検討などは学部学生には負担が大きいが、単にこちらの出した条件で実験するのではなく、一つ一つの実験で学生に考えてもらい、自分の時間を使って自分で考えた実験系を進めさせるようにしている。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

講義・実習中に理解確認の質問を適宜投げ、学生の回答や反応を踏まえて説明を補足した。実習では操作を巡回して観察し、つまずき点その場で指導して手技の定着を図った。

(2) ICTの教育活用

有

講義資料や自習用資料をLMSに集約して配布し、必要に応じて実習手順の解説動画の一部をオンデマンドで提供した。ミニテストなどの学習用資料を随時配布する事で、学生が復習しやすい環境を整え、学習を支援した。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

資料は授業前に読めるよう事前配布し、予習で基礎理解を促した。資料の一部は学生に図や実験手順の流れを書き込ませ、考えを可視化して理解を深めた。スライドは色の見え方の多様性に配慮し、赤字だけに頼らず太字・下線を併用してアクセシビリティと見やすさを高めた。

(2) 学生の理解度の把握

A

毎回の講義の途中および終了時にミニテストを実施し、結果を成績評価に反映することで理解度を継続的に把握した。得点分布や誤答傾向を確認し、理解が不十分な領域を把握した。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

A

ミニテストの結果を評価に反映することを明示し、授業内容を意識して学習する動機付けとした。加えて講義資料を事前配布し、予習・復習を行った上で授業に臨むよう促した。

(4) 学生とのコミュニケーション

B

講義後に口頭での質問を受け付け、実習中も随時質問に対応した。加えてメールでも質問を受け、内容に応じて個別に回答し、学習上の疑問解消を支援した。

(5) 双方向授業への工夫

B

講義中に理解確認の質問を随時投げかけ、学生の回答や反応を踏まえて説明の強調点を調整した。実習でも手順や操作の意図を問いかけながら進行し、双方向のやり取りを通じて理解を深めた。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

ミニテストでは国家試験過去問を年度・出典を明記して出題し、日常的に国家試験を意識できるようにした。講義中も扱う内容が国家試験の必須問題相当か、A問題相当か等の範囲を示し、求められる知識レベルや優先度を明確化して学習の方向付けを行った。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

授業評価アンケートの意見を踏まえ、講義・実習資料のアップ時期を従来より早め、予習・復習に活用しやすい環境を整えた。特にミニテスト関連資料は、全講義終了後にまとめて掲載する方式を改め、各回の講義・実習終了後に速やかにアップする運用へ変更し、学習の振り返りを促進した。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

資料を迅速に掲載できた一方、確認作業が十分でないまま公開する場面があり、一部のミニテストで解答誤りが生じて学生に混乱を招いた点が課題である。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

次年度は、資料公開の迅速さを維持しつつ、公開前のチェック手順（解答照合・ダブルチェック等）を標準化する。誤り発見時は訂正履歴を明記して速やかに周知し、学生の混乱を防ぐ運用を徹底する。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

講義中・終了時のミニテストを継続実施し、成績評価に反映することで学習の動機付けと理解度把握を行い、予習・復習を促進した。今後は資料公開を迅速化しつつ、解答の事前照合などチェック体制を標準化して質を高める。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組 に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

本取組により、学生が過去のミニテストや関連資料を整理して事前学習に活用する様子が見られ、予習・復習の習慣化に一定の効果があったと考える。これに伴い、授業での要点把握や理解確認が円滑になった。

7. 指導力向上のための取組 (FD研修参加等)

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

参加できなかったFD研究会に関しては後日のオンデマンド配信を受講する等、積極的に参加している。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

講義や実習に関しては国家試験合格率の向上と感染症に関わる必要な知識を身に着けた獣医師の育成を目的としている。研究室での教育に関しては前述の通り、科学の基礎を理解し、基本的手技を身に着け、ある程度研究を自分で進めることが出来るような学生の育成を目標としている。また、実験を行うだけでなく、発表面に関しても研究概要のまとめ方や提示する際のレイアウトを調整するといった訓練も兼ねて、卒業までに学会などの外部での発表を行わせることを目標としている。短期的には研究室から出す論文数の増加、講義で用いるミニテストの量と質の向上を目指し、長期的には研究室内の手法や機器類等、そして学生がより主体的に研究に関われるような環境を整えていく。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

麻布大学シラバス

麻布大学キャンパスプラン